

近重直澄 ちかひら 隨筆家、漢詩人。明治二年九月二十日上佐園生れ、昭和十八年十一月十六日歿（一八七〇—一九四一）。幼名増治。號双舍居士、雙舍主人、物安居士、物闇等。化學者、理學博士。帝國大學卒、第五高等學校教授を經て、明治二十一年京都帝國大學教授。趣味多く、漢詩の他俳句を能くし、飄逸輕妙と稱せられの畫技と有り、茶道ぶと達した。

著書に、『參禪錄』（明治四十二年九月十三日服部書店）、『禪學道體』（大正四年五月五日東京亞堂書房「縮刷名著叢書」）、『彌勒出生以前』（大正十四年五月一日大阪毎日新聞社・東京毎日新聞社）、『病牀錄』（昭和六年四月五日自刊、京都・人文書院）、『閑居集』（昭和六年七月三十一日京都・自刊）、『雪だるま』（附・禪林世語集）（昭和十年七月五日京都・人文書院）、『安井隱居集』全三冊（昭和十四年二月十一日京都・近重先生古稀祝賀會）、『化學ぶの觀たるる東洋上代の文化』（興亞教學研究会編、昭和十五年二月二十五日自刊書局「教學新書」）、『茶道百話』（近重物安名、昭和二十一年七月十五日京都・晃文社）等。

